

Enhavo	1
『藤本達生の文法教室』発刊によせて.....	矢野裕巳 ... 2
第93回日本エスペラント大会報告.....	奥脇俊臣 .. 4
エスペラント運動100周年の原点に返って.....	川地善則 ... 8
一つの国際語・エスペラントは必ず実現する	三好 鋭郎 .. 11
海外特派員ページ	ジェレミ・ギシュロン .. 16
通信添削講座模範解答	裕 大福 .. 24
通信添削問題	26
EPA事務局便り	27

2006年9月 新規・継続会員

新規

普通会員：原田安正（宮崎）、筒井希光（京都）、越智純子、佐道勝子、花田伊津子（広島）、大本北海本苑（北海道）

Multan dankon kaj
bonan kunlaboron!

継続

普通会員：河本紀彦、宮崎明（京都）、滝沢満子（長野）、渡辺康子（北海道）、大野良子（神奈川）、川出芳衣、中井宏、小藪弘隆（和歌山）、金岡達也、津本みはる、上田三郎（兵庫）、小林美也子（新潟）、田賀紀之（鳥取）、細矢りつ子、佐藤修一、加藤権四郎、品川忠昭（山形）、児玉行（山口）、恩田創健（群馬）、山本明子（東京）、辻千恵子（佐賀）、宮崎正（大分）、前田富美男（大阪）

家族会員：佐藤のり子、加藤ミヨ子（山形）、山本喜多男（東京）

表紙の解説（Klarigo pri kovrila bildo）

出口 瑞（DEGUĈI Micugi）

「9・11 祈りの形」“La 9-an de septembro Preĝa Formo”

『藤本達生の文法教室』 発刊によせて

EPA 常務理事 矢野裕巳



「とにかく、短期間だけ。すぐに後任は決まるから。」「要はつなぎだから。」
「とにかくちょっとの間だけだから。」
突然の川村事務局長辞任の直後でした。

鹿子木 EPA 理事長からの暖かい、激励のお言葉でした。

2006 年 4 月 8 日付けで私は EPA 事務局長の辞令を頂きました。

その時私はつぎの出口日出磨先生のお言葉を考えていました。

Mi nun vivas naskita ĉi tie en la mondo kaj tio signifas, ke mi certe portas ian mision.

Mia vivcelo eble ne devas esti nur akiri gloran honoron nek gajni agnoskon de merito mondecan .

Se mi vivos kvindek aŭ sesdek jarojn (多分現代の感覚では sepdek aŭ okdek jarojn でしょうか) en ĉi tiu mondo, mi devas postlasi ion, kiel memoraĵon de vivo.

Estas bone, eĉ se mia laboro restos tute ne taksata.

Se mi ne povos ion ellabori, almenaŭ mi devas postlasi signifojn de mia penado por ellabori.

Mi notos ĉiufoje, kiel mi suferis aŭ kiel mi komprenis, por ke espereble tiu noto iel helpu al la postvenontoj.

「自分は、今こうやって、この世に生まれさせられてきている以上は、ここに何らかの使命は持っているにちがいない。けっして、世間的なはなばなしい名誉や功名を得んがためのみではなからう。とにかく、自分というものが、50 年なり、

60年なり（多分現代の感覚では70年、80年でしょうか）この世に在ったという記念には何かを後世に残さねばならぬと思う。縁の下の力もちで結構だ。たとえ、何事もなしえないでも、なそうとして努力した跡だけでも、残さねばならぬ。」

私は、たとえ短い期間でも、自分が事務局長である間に何かを残そうと考えました。そこで、日頃考えていた基本文法書の発行を思いつきました。一般の人は文法書というと、とかく難解なものを想像しますが、本来文法は、実際に文を書き、会話する時に役立つものでなければならぬはずです。

今回発行の『エスペラント語の入門書』藤本達生の文法教室は、実際に、長年、藤本先生がエスペラントを使いながら感じ、理解されてきた内容が詰まっています。エスペラント普及会事務所で執筆される先生は、参考資料や辞書を参考にするのではなく、最近ではほとんど見かけなくなった原稿用紙にボールペンで書かれていました。本書で紹介されているエスペラント例文の多くは、実際に先生が会話の中で耳にしたものから選ばれています。

「30年前、ブルガリアで会ったエスペランチストがこんな風に私に話しかけた」「40年前の日本大会では、アメリカのエスペランチストがこんな表現で私に話しかけた」等、まさに生きたエスペラント会話のエッセンスがこの本に詰まっています。そのまま実際の会話に役立つ文法書というのがこの新しい書の特徴なのです。

50年に及ぶエスペランチスト藤本達生の生の体験がこの本に凝縮されています。読者の皆様にも、秋の夜長、この本を読んでエスペラントにさらに磨きをかけて頂きたいと思っております。

2006年6月1日付けでベテラン吾郷事務局長が再登板。私の短い中継ぎ登板は終わりました。

日本エスペラント大会（岡山大会）報告

EPA 代議員 奥脇俊臣

10月7日から9日にかけて岡山市の岡山コンベンションセンターで開かれた第93回日本エスペラント大会に参加させていただきました。

今年は日本で組織的なエスペラント運動が始まって100周年という記念すべき年にあたります。実は岡山はその組織的なエスペラント運動の発祥と大きく関わりがあります。というのも、今からちょうど100年前の1906年に現在の日本エスペラント学会（JEI）の前身、日本エスペラント協会（JEA）が設立されたのですが、日本エスペラント協会設立にあたっては岡山の第六高等学校で英語教師をしながら、通信教育でエスペラントを教えていた、G.E.ガントレットという人の通信講座の受講生677人の名簿が元になっているからです。

岡山は日本におけるエスペラント発祥の地の一つといわれ、聖地的な存在です。また、東洋人初のUEA会長となった八木日出雄医学博士は岡山大学の学長をされていました。今回の大会参加記念品は『八木日出雄記念誌』。まさしく、岡山は100周年を記念するにふさわしい土地なのです。

さて、亀岡天恩郷を7日昼に出立した田中雅道EPA専務理事、裕大福EPA常務理事、吾郷孝志EPA事務局長、西永篤史120年史編纂事務局長、川地善則EPA理事、そして私は夕方に岡山本苑に到着。翌8日から日本大会に参加させていただきました。



開会式は8日の昼過ぎからでしたが、それまでも初心者番組や

JEIの試験、エスペラント講演等様々なプログラムが開かれていました。

私は午前9時15分からの初心者番組に参加させていただきました。その初心者番組は8日、9日通してのプログラムで、複数の先生方が日本語で講演等をされ、講演後には短い会話の時間が設けられていました。

最初に講演されたのはEPA理事の三好鋭郎さんで、「もうひとつの世界 EUに対するEsp 宣伝の取り組み、その想い」と題されたの講演でした。

最後に全員で起立の上「タギーチヨ」を合唱してエスペラント運動百周年の記念にふさわしい大会の幕が降りました。

現在、三好さんはEUにおいてエスペラントの有用性を認識してもらうため、元々多言語国家でありながら、人造語であるインドネシア語を共通語として採用し、成功している唯一の国家、インドネシアのユドヨノ大統領に、フランスのフィガロ紙上で、その成功物語を語っていただくこと悪戦苦闘しておられ、その実現の手応えを現在感じておられるということ、また、現在EU内でも流れは英語に傾きつつあるが、なんらかのきっかけでエスペラントに流れが傾く可能性は十分にある、EUが公用語としてエスペラントを採用するようこれからも活動していくと、エスペランチストに夢と希望を与える講演をされました。

この日は三好さんの後は金沢エスペラント会の川西徹郎さんが「いま、あたらしい世界を示すザメンホフのことば」と題して講演。ザメンホフのことばの紹介、その原文の学習を行い、その後は愛媛の中塚公夫さんが「コンピュータとエスペラント」と題してパソコンでの字上符の出し方等について説明をされました。

昼食、記念写真の後に開会式が執り行われ、柴山純一 JEI 理事長や、原田英樹 LKK 会長の挨拶、韓国のエスペランチスト、岡山市の友好都市出身のエスペランチストの挨拶などがあり、最後に「ラ・エスペーロ」を全員で合唱しました。

開会式の後には JEA 設立に一役買った G.E. ガントレットにちなんで、「ガントレット家の人々」という公開講演会がありました。シンポジウムでは、G.E.ガントレットの曾孫で、現在日本クリスチャ



ンアカデミー関東活動センターのスタッフをされているガントレット彩子さん(写真左端)、音楽評論などをされている丘山万里子日本大学文理学部講師、ソーシャルワーク理論史・社会事業史を専門にされている松倉万里子さん、濱田栄夫山陽学

園大学コミュニケーション学部教授4人が登壇され、それぞれ「E. ガントレットについて 家族と教え子のエピソードを中心として」「山田耕筰の『理想』をめぐって」「ガントレット(山田)恒の足跡」「ガントレットとエスペラント普及活動」と題して講演をされました。あの有名な作曲家である山田耕筰は実はこのG.E. ガントレットから西洋音楽やエスペラントを教えてもらっていたということが分かり、大変驚きました。

9日、午前9時15分から日本のエスペラント運動百周年を記念して、「日本のエスペラント運動の第2世紀へ向けて」というシンポジウムが開かれました。柴山純一JEI理事長、田中一喜関西エスペラント連盟組織部長、堀泰雄アジアエスペラント運動委員会委員長、臼井裕之日本エスペラント学会シンポジウム委員会座長に並んでEPA理事の三好鋭郎さんが登壇され、三好さんは一番に講演を

されました。内容は前述のEUにおけるご自身の活動が中心でした。10時25分からは並行して「岡山とエスペラント」というタイトルで別のシンポジウムが開かれ(写真右)岡山に関連のあるエスペランチスト4人についての講演がなされました。



その4人のうちの一人に出口日出麿尊師さまが挙げられ、鹿子木旦夫EPA理事長が日出麿先生について、大本で一番早くエスペラントを学んでいたといわれていることや、加藤明子女史がエスペラントを同志社大学に学びに行くにあたっては、日出麿先生がエス語講習会の新聞記事を加藤女史に渡されたこと等を紹介されました。

資料には先生の「エス語学習の必要 中等学校に採用せよ」の論文が出されていました。大本がエスペラント活動に熱心に取り組んでいるというのはエスペラント界では知られていることと思われませんが、岡山出身の尊師さまがいち早く大本の中でエスペラントと関わっておられたということはあまり知られていないでしょうし、意義のあるシンポジウムだったと思います。

他には元UEA会長の八木日出雄博士について、息子さんの八木富士雄さんが講演。八木日出雄博士は大正時代に「日本における新精神運動」というエス語の論文をUEAの機関誌「Esperanto」に投稿した、大本にとっても大変恩義のある方ですが、1965年の東京での世界エスペラント大会を目前に脳溢血で倒れ、亡くなりました。ご昇天直前には言語障害になっておられたということですが、最後までエスペラントという単語だけははっきりとおっしゃっておられたという感動的な秘話が披露され、大変感銘を受けました。

昼食後には弁論大会や、来年の横浜での世界大会でも美しい歌声を披露される予定の福嶋千夏さんのソプラノ独唱後、閉会式となりました。閉会式での発表によると参加申込者は476人。朗読コンクールでは高槻エスペラント会の中津正徳さんが復活八木杯の栄に輝かれました。

来年の日本大会開催場所は群馬県みなかみ町。

最後に全員で起立の上「タギーチョ」を合唱してエスペラント運動百周年の記念にふさわしい大会の幕が降りました。



エスペラント運動100周年の原点に返って
エスペラントの素晴らしさを再実感

EPA 理事 川地善則



日本エスペラント運動100周年を記念して、運動の発祥地の一つである岡山を会場に、10月7日～9日まで第93回日本エスペラント大会が行われました。幸運にも、私はその記念大会に参加できたことを、たいへん光栄に思っています。

エドワード・ガントレットは、明治23年、英国パイプオルガンの技師として来日。以来、地方の官立・私立の学校において、英語教育に専念して活躍する。ガントレットがエスペラントの存在に強く興味を持ったのは、彼の金沢在住当時の友人・マッケンジーから知らされたのがきっかけという。

明治33年 岡山第六高等学校に英語及びラテン語教師として赴任、エスペラントの普及に力を注いだ。そして、今からちょうど100年前、日本エスペラント協会が発足し、日本でのエスペラント運動の基礎が出来上がっていく。

岡山六高といえば、大本三代教主補・出口日出麿尊師を思い出す。大正5年9月に日出麿先生は、六高に入学されている。日出麿先生とガントレットとは、面識はなかったように思われるが、その当時、ガントレットが種を蒔いた芽が、すでに花を咲かせている頃だと思われる。日出麿先生がエスペラントを始められた当時の風景を想像すると、なんだか胸がわくわくしてくる。

ところで、日本エスペラント大会は岡山駅前の、近代的なコンベンションセンターを会場(写真上)として開かれた。そこはまさに、エスペラント国そのものであった。あちこちで、旧交を分かち合う光景が見られ、期間中には多彩なプログラムが盛り込まれて、全ての番組を見るのは不可能だった。

私は1日目は初心者番組を聴講した。初心者番組は2日間を通し

て、6時間のコース。そのうちの3時間だけ聴講したのだが、たいへんに充実した内容だった。初心者対象でありながら、それ以外の人も、十分勉強になった。ただのエスペラント入門講座ではなく、今、最前線で活躍されている活動家たちの熱い語りに圧倒された(写真右)。

特に、三好鋭郎エスペラント普及会理事による、EUの共通語としてエスペラントの採用を促すための熱心な取り組みは、今後のエスペラント普及のために大きな影響を及ぼすことが実感された。



また、川西徹郎さんのザメンホフ博士に対する熱い思い、また、1907年の第3回世界エスペラント大会でのザメンホフ博士の演説文の朗読を聞きながら、今の世の中でも、まったく色あせず通用する内容だったことにあらためて驚かされた。今だに民族間の争いが絶えない世界で、エスペラントは今こそ必要とされているのではないかと思った。

ところで、私はエスペラントは異民族間だけで活用される言葉ではないと考えている。同じ日本人同士であっても、エスペラントを使えばたいへんに有意義であることが、今回の講座で体験できた。なぜなら、エスペラントの聴講だけでなく、実際にグループに分かれて、二人ペアでエスペラントを使う時間も設けてあったからです。

私は習い始めて2年目という、横浜のご婦人と話す機会を得た。相手がエスペランチストというだけで、親しく話すことができた。

大会2日目は、「岡山とエスペラント」と題して、4人のパネラーの下に、岡一太、上代淑(かじろ よし)、出口日出磨、八木日出雄氏など岡山県にまつわる著名なエスペランチストの紹介がなされた。

ここでは、八木日出雄について述べておきたい。大正2年、大阪府立北野中学、京都第3高等学校に入学。共に、首席で卒業し、京大医学部に進学。昭和9年、岡山医科大学教授として赴任。以後、半生を岡山で過ごす。エスペラントとの出会いは、北野中学のと

き。それ以来、エスペラントに情熱を燃やす。数々のエスペラントの講演、論文を執筆。UEAのデレギート、UEA評議委員、副会長を経て、アジア初のUEA会長に就任。エスペラント界だけでなく、専門の産婦人科でも世界的な権威者として知られた。

エスペラントに情熱を注いだのは、何であったか。ご本人に尋ねるしかないが、エスペラントに普遍の愛(神)を見い出されたからではないだろうか。

日本のエスペラント運動100周年を迎えて、今一度、原点に戻って、エスペラントのすばらしさ、また先人たちのすばらしさを感じることができたように思う。

最後に、出口日出磨先生の論文(「神の国」大正15年)の一部を記して、今回の日本大会参加の感想を終える。

人類よ！ 諸君たちは静かに目をつぶって、この世界語の一文を口ずさんでみよ。

この快い平和な旋律はなんと響くか。

その後の心の平和さと平静さを思い見よ。

そして、ヨハネ伝の一章を高唱してみよ、『太初(はじめ)に道(ことば)あり、

道(ことば)は神と共にあり云々・・・・・・・・・・』

このエス語こそ神である。神の言葉である。

この語を使用しうる者は、この語のうちに神を見出すであろう。



EPA コーナーでは、新刊『エスペラント語の入門書-藤本達生の文法教室』が好評を博していた。

一つの国際語・エスペラントは必ず実現する！

< 第93回日本エスペラント大会06/10/09シンポジウムの講演に一部加筆 >

スワニー社長・EPA 理事
三好鋭郎



< フランスが言語革命の鍵を握る >

私は2002年度から、フランスのル・モンド紙を初め、ヨーロッパ13カ国の主要新聞で16回にわたり、エスペラント普及のための全面広告を続けてきました。目的は、EU(欧州連合)の公用語に採用してもらうことにあります。EUが動けば世界の言語革命につながる千載一遇のチャンスと考えています。そのために、世界エスペラント協会(UEA)、欧州エスペラント連盟(EEU)をはじめ、各国のエスペラント会の協力を得て、この活動を進めています。

EU25カ国の憲法では言語の平等性が保障され、全加盟国の21言語が公用語と認められながら、膨大な翻訳や通訳費だけでなく誤訳や時間的なロスなどから、何の議論もしないまま共通語を英語にしようとしています。

エスペラントの公用語化についての賛否は、2004年4月のEU議会で、賛成120対反対160という僅差だったことから、UEAのコルセッティ会長は「エスペラント誕生以来、117年目の快挙だ」と述べています。さらに同年5月にエスペラント派が多い東欧8カ国が加盟し、154名のEU議員が増えたことも追い風となっています。EEUでは、勝利のためにはフランスを味方につけることが最も近道だと認識しており、今後の広告活動もフランスに集中いたします。

大半の国々が英語の支配は仕方がない現実だとあきらめる中で、最も英語を受け入れようとしないのがフランスだからです。フランスを動かせばドイツが腰を上げると言われており、残りの23カ国は両国に追随すると見えています。

< ベルギーでの夕食討論会 >

そこで私はEEUの協力を得て、フランス語を話す議員108人(フランス・ベルギー・ルクセンブルグ)を、EU本部のあるブリュッセル(ベルギー)のホテルに招待し、「共通語について討論する夕食会」を計画しました。

討論会は10月3日と定め、ポーランドのEU議員でエスペランティストのハンズリック女史、アイルランドのブリュッセル大使館の外交官でEEU会長のオライオンさんが案内状を出してくれました。しかし、出発前日に19名から参加できないという返事があったが、その他から返事がないというメールを見て落胆しつつ現地に飛びました。議員はみな想像以上に忙しく、当のハンズリックさんですら遅刻するありさまでした。

結果、EUの多言語主幹担当閣僚として英語化を推進しているフィーゲル委員長を、側面から後押ししているハーバード大学のファン・バライス教授、多言語主幹派と言われるブリュッセル自由大学のパートゥンス教授、フランスやイタリアのEU担当外交官など5名が出席してくれました。彼らはEUの共通語を英語にするのが仕方のない選択と考えている議員の代理人たちでした。

私たちの側は、オライオンEEU会長、同副会長でベルギーのウィットクト女史、ハンズリック議員、スロバキアの外交官のラインバルト氏と私の5名でした。会話はフランス語で行われ、ウィットクト女史がエスペラントとフランス語の通訳をつとめてくれました。

彼らは、「英語はすでに広く世界に普及し、それによってビジネスも行われている。だから、英語を共通語にすることが最も自然である」といった論調で終始一貫していました。

オライオン会長は穏やかにしかも力強く説得を続けました。「文法が規則的で例外がほとんどありません」「一字一音で発音記号も不要です」「ラテン語を基調としており、欧州人にとって英語を勉強する10分の1の労力で習得できます」といった、エスペラントの優位性を述べました。

また、「ハンガリーでは、毎年7～8千人が大学レベルのエスぺ

ラントを身に付け卒業しています」EUの人々は英語の勉強のために、毎年170億ユーロ（2兆5千億円、瀬戸大橋2つ半の費用）を留学や先生の招聘などのためにイギリスに払いながら、英語力はまったく英国人ととどきません。エスペラントは民族間の平等性が完全に保たれます」と反論しました。

< EUの英語推進派論客も問題を認識 >

私は、インドネシアが人造語の共通語インドネシア語と740もの島々の言葉を併用して2言語国家として成功した例を述べ、現在、同大統領にインタビューを申し込んでおり、もし成功すればフランスの新聞に登場いただく予定です」と伝えました。そして、「人類が英語と格闘している間に、英米人だけが先端技術や新規開発に専念できます」「ますます貧富の差は広がりテロの横行は止まりません。言語の平等性が保たれ、はじめて真の世界平和への話し合いの端緒が開かれます」と説きました。

ハンズリック議員は「ポーランドの多くのEU議員は英語ができませんが、できない議員は議論に加わることができず、全く蚊帳の外に置かれています」と述べました。

彼らが返答に窮し流れを変えたのは、「EUの憲法ではすべての加盟国の国民、言語は平等だとしているにもかかわらず、共通語が英語になってしまうというのは、憲法の本質、民主主義、正義は一体どうなるのでしょうか」と迫った、オライオン会長の一撃でした。7時半から議論が始まり、終わったのは何と夜中の24時40分でした。私は日本から到着した翌日で、5時間を越える議論にくたくたの状態でした。

しかし、世界・人類という視点で日本や欧州各国から集まった我々の熱意や、私の人生を賭けた広告活動などに共鳴してくれたのか、彼らの対応は目に見えて軟化してきました。

最終的に、「世界には厳然とした言語差別が存在し、政治家や市民が目覚めてもらい、その問題を議論する価値がある」と彼らも認めました。そして10月10日、もっとも強硬だったブアン・パライス教授夫妻が、オライオン会長宅での昼食招待に応じ、「夕食討論会は大変意義があったと述べた」と、同会長からメールが届きました。

た。

今回の討論会には議員が集まらず失敗かと思いましたが、影響力の大きい英語推進派の巨頭たちの考え方や視点を少し変えさせたという意味で、大きい足跡を残せたと思います。

< 今後の活動 >

討論会の日午前中に私はEUの本部を訪れました。大混雑する受付で「ポーランドのハンズリック議員に逢いたい」というと、受付嬢は同議員に電話をして私の訪問を伝え、秘書が私を玄関まで迎えに来よう要請しました。パスポートを確認し私の写真を撮り名札を作り胸につけてくれ、秘書の人物確認までして金属探知機を通過し、はじめて入館が許可されました。



中央には、732 議員の事務所がある 20 数階建ての巨大な議員会館があり、南に隣接した議事堂では議事が進行中で、その日の議事に関する議員が250人ほど出席していました。(写真)

議長席の後方には二階のガラス張りの21室の通訳室が並んでおり、誰が喋っているかを確認しながら21カ国語にそれぞれ3名つき63名が同時通訳に専念していました。しばらく私は欠席者の席に座り、スイッチを切り替えると各国の言葉が選べることを確認しました。

議員会館の南に隣接した巨大な建物の小会場群では、63名の通訳が必要な会議が毎日平均50回も開かれており、EUの諸経費の約3分の1が通訳や翻訳費に消えていることが理解できました。

今後の戦略として、我々の僅かな資金と人材を生かすには、フランスの議員78名に絞り込み、ハンズリック女史とオライオン会長と私が、フランスの議員会館を一つ一つ回って案内しましょう、隣同士なので1日もあれば十分ですと提案しました。議員を説得する

討論会にはエスペランチストで経済学でノーベル賞の受賞者ドイツのゼルテン教授や、ザメンホフのお孫さんと呼ばましようとも呼びかけ、現在、EEUで検討してくれています。

その次に、エスペラントが誕生したポーランドの議員54名にアプローチしましようとも提案しました。ワルシャワの討論会には8名が参加してくれたので、ブリュッセルなら過半数が来てくれる可能性を感じたからです。

< 確信を持って前進 >

私は「一つの国際語・エスペラント」という理想は、必ず実現できるという確信を持っています。なぜなら、公に議論をせざるを得なくなると、EUでたった13%しか占めない英国人だけに永遠の特権を与えることはあり得ないということと、出口王仁三郎聖師の80年も前の予言がすべての中しているからです。

過去：「亀岡にいてお江戸の芝居が見えるようになる」「文字が空中を飛んで自由に交信できるようになる」「亀岡で世界中を旅する切符が買えるようになる」などなど。

未来：「地上から電線がなくなる」「水素エネルギーの時代がくる」「数時間で世界のどこにでも行けるようになる」などなど。

そして、エスペラントは世界を統一し、人類に幸福と和合をもたらす言葉になると述べているからです。

最後に、3年前の第90回日本エスペラント大会時の、出口紅大本五代教主の挨拶の終わりの部分をお伝えして終わらせて頂きます。日本人とは思えないほどの美しいエスペラントで、ラジオ・ポーランドから全世界に向けて放送されたものです。

「1980年、祖母の出口直日は『世界の平和には民族と民族が平等な関係におかれなくてはなりません。その第一のものは国際共通語で、それが第二民族語・国語としてもちいられることであります』と述べています。エスペラント運動は人類の未来、悠久につづく私たちの子孫の幸福を左右する大事業であります。地球上の五大陸も人々の話すエスペラントによって満たされる日が必ず訪れるでしょう」

Unu pol', unu Planed', Unuec-Spirito Jeremi Gishron (Israelo)

Dum la mezo de monato aŭgusto mi ĉeestis mirindan FAMILIAN PACOKAMPON aranĝita de la **Kafejo por Ĉiuj Popoloj** (All Nations Cafe), pacgrupo kiu laboras por kontraŭ mi la aĉan militspiriton per familiaj renkontiĝoj de israeloj kaj palestinoj, de judoj kaj araboj, kaj okazigas edukajn aranĝojn kreante pacmuzikon por nia regiono, nia lando kaj por la tuta mondo. Pacgrupo kiu volas sanigi la vundegojn de nia longa mezorienta konflikto, krei novan reciprokan konfidon inter ĉiuj loĝantoj en nia "mezmarbordujo" kaj "montara regiono" uzante araban lingvon kiel entute samvalora ilo apude al la hebrea.

Por la unua fojo "esperanto" (mi forstrekas la "isto-sufikson" de profesio, kio estas rekomendinda), tiu estas mi mem, partoprenis iliajn renkontiĝojn eĉ iome jam dum la planado. Ĉio estis aranĝita en bona tempo kaj kiam subite, neniu ja scias la kialon, eksplodis milito, mi admonegis ilin "daŭrigu kun la projekto" spitante la stultan militpolitikon de multaj gvidantoj kaj iliaj "fiaj vizioj" kaj "murdividego". La kampejo oni aranĝis en kaj apud forlasita domo ĉe akvofonto Eijn El-Ĥanija kiu troviĝas precize sur la antaŭ limo inter Israelo kaj Jordano. Nuntempe la loko apartenas al la palestina teritorio tiel ke ankaŭ araboj libere povas viziti la lokon sen nenia "vojaĝpermeso" de la israela polico, kaj ŝajnas ke oni planas tie establi "naturo-rezervejon" en tiu valo ĉar oni jam metis kelkajn grandajn ŝildojn tion indikante. Estas belega valo nomita Emek Refaim menciita jam en la Biblio kaj laŭlonge iras la trajno inter Jerusalemo kaj Tel-Avivo.

Reveni al kaj esplori la naturon, estis nia ĉefa programo. De la komenco partoprenis sep infanoj kaj ok plenkreskuloj, sed tiu nombro estis nur la komenca. Dum tiu semajno nin vizitis eble 50 ĝis 100 personoj el kiuj iuj restis unu aŭ pluraj tagoj. Do precizan

一つの民族、一つの惑星、一体の精神

ジェレミ・ギシュロン（イスラエル）



8月の中旬に私は、「すべての民族のための喫茶店」Kafejo por ĉiuj Popoloj が準備したすばらしく家族的な平和キャンプに参加した。その平和グループは、イスラエルとパレスチナ、ユダヤ人とアラブ人の家庭的な集いを催し、私たちの地域、我が国、そして全世界のために平和の音楽を作ったり、教育活動を行なって、醜い闘争心に対抗する活動をしている。平和グループは、長い中東紛争の傷を癒し、海岸や山岳地帯の私たち住民が新た

にお互いに対し信頼を抱くように、ヘブライ語と共にアラビア語を使っている。

私は自分をエスペラントと呼んで、イストという接尾辞を省いた方が良いと思っている。初めてエスペラント（私）が彼らの会合に参加した。それはまだ計画中のことで、わずかな時間だったが、すべては良い時期に準備された。そのとき突然、誰にも理由が判らない戦争が勃発した。私は計画を続けなさいと彼らに強く進言した。多くの政治指導者による愚かな戦争と邪悪な幻想と大量虐殺に対抗せよと。イスラエルとヨルダンの国境の手前にある Eijn El-Ĥanija という泉のそばで、空き家を拠点にして人々はキャンペーンを行った。今のところそこはパレスチナに属しているので、アラブ人でもイスラエル警察の通行許可なしで自由にその場所を訪れることができる。人々は大きな看板を立てて、自然保護地区をその谷に作ろうとしているようだ。その谷はEmek Refaimと呼ばれるとても美しい谷で、聖書にその名が記されていて、エルサレムからテルアビブまでの鉄道の沿線にある。

nombro de partoprenantoj estas malfacile kalkuli. Kaj eĉ la lokaj araboj kun ĝojo aliĝis al ni, homoj kiuj antaŭe loĝis en tiu loko kaj konis la posedanton de la domo. Familianoj eĉ rajtigis nin uzi la forlasitan domon senkondiĉe. Multe ili povis rakonti pri la “bona vivo” kio foje ĉi tie estis, pri la riĉo de la fruktĝardenoj, pri la bonaj abundaj rikoltoj kaj pri la oftaj ĝojaj festenoj kiujn oni iam ŝategis. Kaj diversaj muzikantoj ludis por ni araban Rababan, Tirharmonikon, Balalajko, Fluton, Gitaron kaj Tabla (araba tamburon). Ni ankaŭ spektis belegan dancadon de knabino kaj eta knabo kiu lernis karaton montris siajn sciojn je tiu luktoarto.

Kunportis mi informojn en la angla pri la “bahajaj instruoj” pri estonta mondlingvo (fakte unu el iliaj profetoj ialoke rekomendas “araban” kiel la plej taŭga, kvankam esperanta devas esti uzata kiel la helpa), mian “belan” esperantonflagon (ne la miaopinie MAL-belan oficialan) kaj vortokubojn kun la diversaj afiksoj kaj finaĵoj. Kaj firman volon realigi la vortojn de Zamenhof ke “ne al glavon soifanta ĝi kuntiras homan familion” - iamaniere fajfi al ĉituta murdado ĉirkaŭe ĉe niaj limoj.

Eta komenca malfacilo estis “veki intereson” pri la nova lingvo. Sed tamen mi plantis la flagon kaj oni komencis demandi. Oni jam havis “Himnon de la Kampo” kantata en tri lingvoj, ia himno kiu treege similas al tiu slogano de Oomoto pri “Unu Dio, Unu Mondo, Unu Interlingvo” sed kun tia variacio: “Unu Popolo, Unu Planedo, Unu Spirito, ĉion (kion) ni bezonas estas Amo”. Feliĉe kunestis ankaŭ maljuna irlanddevena anglo, 72-jara okulisto, kiu traveturas la landon por progresigi la pacon. Lia nomo estas D-ro David Leighton kaj tial ne nur liaj arabaj amikoj sed ankaŭ ni pacemuloj karesnomis lin “Reĝo Davido”. Mem mi proponis “D-ro David Livingstone” kiel pli taŭga karesnomo. Jen “gepatroparolanto de la angla” - kaj kiam mi fine sukcesis rompi liajn antaŭjuĝojn kontraŭ esperanto - la etoso multe ŝanĝis. Oni aranĝis lecionon por la gvidantoj de la pacgrupo pri Esperanto kaj jen oni akceptis aldoni

自然に帰り、自然を調査することが私たちの主なプログラムだった。当初、参加していたのは、子供が7人と大人が8人だけだったが、一週間のあいだに50人から100人くらいが吾々を訪ねてきて、そのうちの数人は一日から数日留まった。参加者の確実な数を数えることは難しかった。以前そこに住んでいた人たちや、その家の持ち主の知りあいなど、現地のアラブ人も喜んで私たちに加わった。家族の人たちは、その空き家を条件なしで私たちに使わせてくれた。彼らはここでの良い生活についていろいろと話してくれた。果樹園の豊かさ、大収穫、大好きだった楽しいパーティを度々催したことなど。そして様々な演奏者たちが私たちのためにアラブのラババやアコーディオンやバラライカ、フルート、ギ



ター、ターブラ(アラブ太鼓)を弾いてくれた。私たちは、少女のとても美しいダンスを見た。そして、空手を学んだ幼い少年は自分の武道の知識を披露した。

私は、バハイ教の教えで将来の世界共通語(実際、彼らの預言者の中の一人は、ある場で、エスペラントは補助的言語として使われるにちがいないけれども、アラビア語が最もふさわしい言語として勧めている)についての英語での情報や私の美しいエスペラントの旗(公式なエスペラントの旗が美しくないというのではない)や様々な接辞や語尾をもつ単語の積み木、そして、なんらかの方法で、私たちの国境付近でのこの殺害行為に警鐘を鳴らし、「人の家族を渴いた剣へと引き寄せない」というザメンホフの言葉を実現させるための堅い意志を持参した。

わずかな最初の困難は、新しい言語についての興味を呼び起こすことでした。しかしながら、私はその旗を植えつけ、人々は質問し始めた。人々は、3つの言語で歌われ、大本のスローガン「ひ

Esperanton kiel ilia “kvara” lingvo en la himno. Unue mi volis iom ŝanĝi ĝin, alproksimigante al la devizo de Oomoto, sed oni preferis, ne ŝanĝu bonvole sed nur traduku. Kaj do iom adeptante tamen la vortojn pro la ritmo ekestis nova verso de la kanto: **Unu popol’ - unu planed’, unuec-sprito (trifoje) - Ĉion ni bezonas estas am’** kantata post la angla, araba kaj hebreaj versioj.

Ĉiun tagon ni havis ĉeftemon, unu tago estis “amo” - ĝenerale kaj speciale, alia temo “naturo” kaj plia temo “esplori la ĉirkaŭaĵon” kaj “estontaj vizioj” ktp. Kaj vespere kantado kaj agrabla kunetoso kaj komuna (libera) preĝado. La 15an de la hebrea monato AV estis festotago kaj ni faris teatron kaj amuziĝis diversmaniere. Alvenis instruisto de Jogo kiu sperte fleksadis sian korpon en plej multaj pozicioj kaj ankaŭ ni provis la ŝajne neebla. Povas esti ke dum sekvaj lecionoj tiu instruisto ankaŭ aldonus iom da pli profunda meditado, sed ni nur partoprenis tamen enkondukan korpofleksigon.

Nun, post la fino de la Familia Paco-Kampo, mi tamen iom cerbumas ĉu ne la vortoj “unu Mondspirito” pli bonus ol “unuec-Spirito”. Sed tio jam estas ŝanĝeto de la origina kanto kaj mi devas prikonsideri tiun poluradon kaj due interkonsenti kun la kantistoj de la grupo. Povas esti ke tio esta la plej bona solvo: **Unu Popol’, unu Planed’, unu Mondspirito**. Komparante kun la vortumado de Oomoto oni konstatas ke “unu popolo” paralelas kun “unu interlingvo” (ĉar lingvo kaj popolo ofte ja estas sinonimaj vortoj). “Unu planedo” certe estas la “unu mondo” vortoj de Oomoto, kaj restas “unu mondspirito” kio ja bone povas esti ligita kun la nocio de “unu Dio” por la tuta mondo. Dio estas la Spirito, la Mondo nomiĝas nia Planedo kaj fine estas ja la “esperanta popolo” kiuj havas tiun eternan “interlingvon”.

Kelkaj detaloj eble interesus la Oomotanoj, ekzemple ke la nomo de la plej juna partoprenanto estis la knabino “Mizo”. Araba knabineto kun tiu japanlingva nomo. Kaj mi kiu jam iom konas la

とつの神」,「ひとつの世界」,「ひとつの共通語」に大変似ている「ひとつの国民、ひとつの惑星、ひとつの精神、我々が必要とする全てが愛」という変奏曲のある「キャンプの讃美歌」を既に持っていた。幸運なことに、平和を進展させる為、その国に渡ってきたアイルランド出身のイギリス人で72歳の眼科医も一緒にいた。彼の名は、David Leighton博士です。

そして、アラブの友人だけでなく、争いを好まない私達は彼をダビデ王と好意をもって名付けた。

私自身は、よりふさわしいニックネームとして「David Livingstone」を提案した。私が最後にエスペラントに対する彼の先入観を覆すのに成功した時、英語を両親にもつ彼の雰囲気は大いに変わった。人々は、エスペラントについて平和グループ指導者の為の授業を準備し、讃美歌で彼らの4番目の言語としてエスペラントを追加することを受け入れた。当初、私は大本のモットーに近づけて讃美歌を少し変えたかったが、人々は変えずに訳すだけにすることを選んだ。しかしながら、リズムの為その単語に少し賛同して英語、アラビア語、ヘブライ語の後に歌われる「ひとつの国民、ひとつの惑星、ひとつの精神(3回)我々が必要とする全ては愛」という歌の新しい詩が存在し始めた。

毎日、私たちには主要なテーマがある。一日は愛だった。一般的かつ特別に、他のテーマは「自然」そして、もう一つのテーマは「周囲の調査」と「未来の幻影」などだった。そして、夜間には歌と心地よい雰囲気と共通な(自由な)祈り。ヘブライ月アブの月の15日は祝日だった。そして、私たちは劇を演じ、様々な方法で楽しんだ。多くの体勢で自分の体を上手に曲げたヨガの先生が到着し、私たちも試みたが不可能なようだった。次の授業中、その先生はより少し深い瞑想を紹介するかもしれないが、私たちは入門の体操に参加しただけでした。(写真)



instruojn de Oomoto povis konstati la uzadon de terminoj kiel "sankta spaco" kaj "modelo por la mondo" k.t.p. Ĉio estis bonege aranĝita de Dhyan Or kiu plej flue parolis la araban inter ni hebreoj.



S-rino Lisa Talesnick

Mirijam Iron estas nia internacia

kantistino kaj Daphna Rosenberg gvidis la tutan packantadon ĉirkaŭ la fajro. Zorgi pri la infanoj faris ĉefe Lisa Talesnick kiu studis islaman sufismon ĉe la piedoj de Majstro Murat Yagan el la Kaŭkaza Montaro. Mencienda estas ankaŭ Ali a-Sa'ada kiu transportis la akvon sur la azenoj (ne siaj sed de la najbaroj) kaj **plej multe helpis** aranĝi la tuton ekde la komenco. Dankon al ĉiuj tiuj afablaj kaj bonvolemaj homoj por mirinda semajno en la sino de la NATURO.

Sur ilia hejmapaĝo <www.allnationscafe.org> aperos baldaŭ



bildoj kaj pliaj informoj pri tiu packampo. Kaj iom post iom mi provos helpi aldonante la esperantan version.

S-ro Ali a-Sa'ada



今、家族的な平和キャンプのあと、私は「一致した精神」より「一つの世界精神」の言葉の方が良いかどうか少し真剣に考えている。しかし、そのことはオリジナルの歌のちょっとした変化であり、私はその歌の洗練を考え、二番目

にグループの歌手らと合意しなければならない。「ひとつの国民、ひとつの惑星、ひとつの世界精神」ということが最も良い解答かもしれない。大本の表現と比較して「ひとつの国民」は「一つの国際語」と類似であると確認している。「一つの惑星」は確かに大本の言葉「一つの世界」であり、全世界にとっての「一つの神」の概念とまさしく結びつけられた「一つの世界精神」である。神は霊であり世界は惑星と呼ばれ、最終的に永遠の国際語をもつエスペラントの国民である。

いくつかの詳細はおそらく大本人に興味を抱かせるだろう。例えば、最も若い参加者の名前は「みぞ」です。日本語の名前を持つアラブの幼い少女です。そして、大本の教えを少し知っている私は、「聖なる空間」、「世界の型」などの専門用語の使用を確認できました。私達ヘブライ人の中で最も早くアラブ語を話したDhyan Orによって全てがよく準備されていた。

Mirijam Iron は私達の国際的女性歌手であり、Daphna Rosenberg は炎の回りで全平和ソングを指導した。カフカス山脈出身の Murat Yagan 師の下でイスラム教スーフィー主義を学んだリーダーの Lisa Talesnick が子供達の世話をを行った。ロバ（自分のロバでなく隣人のロバ）で水を運んだ Alia Sa'ad も言及されるべきであり、最初から最も多く準備を手伝った。自然のただ中ですばらしい週になるよう手伝ってくださった丁寧で親切な全ての人々に感謝します。

彼らのホームページ上にまもなく平和キャンプについてより一層の情報と写真がまもなく公開される予定です。少しずつ私は、エスペラント版を付け加えようと思っています。

日本語訳：鬼塚義彰



通信添削模範解答

講師 裕 大福

2006年8・9月号問題

初級

A . 次の文をエスペラントにしてください。

- 1 . その部屋はみんなのためにいつでも開けられている。
- 2 . 彼は怒ってドアを閉めた。
- 3 . そのドアは長い間閉められている。
- 4 . そのドアは開かない。
- 5 . 料理をするために彼女は卵二個をわった。

B . 次の文を日本語にしてください。

- 1 . Lia kolero daŭris longe.
- 2 . La korpo estas morta, la animo estas senmorta.
- 3 . Li estas bona pianisto.
- 4 . Ŝi estas bona violonisto.
- 5 . Li klarigis la detalojn ne buŝe sed papere.

中級

A . 次の文を日本語に訳してください。

"Kie vi kaŝis vin, Kol? Ni ne vidis vin dum la lasta semajno", salutis la plej granda el la knaboj, kiu nomiĝis Dol Rua (Ruĝa Donĉjo) malgraŭ la flavaj haroj, ĉar la kromnomo vere priskribis lian nun mortan patron, kaj aplikigis al li nur kiel mallongigo de "filo de Dol Rua". "Nu, Jano, hejmen denove?", li bonvenis Janon laŭ la insulana formulo por ĉiuj feriantoj, kiuj iel devenis de la insulo.

B . 次の文をエスペラントに訳してください。

書斎の入口にかけられた彼女のモットー "Nec spe nec metu" (夢もなく、怖れもなく) に見られるよう、イザベッラにとっての人生とは、そこに、目の前にあるのが人生であった。たとえ、それが清潔で美しくなかったとしても。
[『ルネサンスの女たち』塩野七生(しおの ななみ)著「イザベッラ・デステ (Isebella d'Este)」より]

2006年8・9月号の解答例

初級 A

1. La ĉambro estas ĉiam malfermita por ĉiuj.
2. Li kolere fermis la pordon.
3. La pordo estas longe malfermita.
4. La pordo ne malfermiĝas.
5. Ŝi malfermis du ovojn por kuiri.

B 1 . かれの怒りは長く続いた。

- 2 . 体は死するが、靈魂は不滅である。
- 3 . 彼はうまいピアノの弾き手である。
- 4 . 彼女はうまいヴァイオリンの演奏家である。
- 5 . 彼は詳細を口頭ではなく書面で説明した。

中級 A .

「コール、君はどこにかくれていたのだ。先週はずっと見えなかったじゃないか」と、少年たちの中で一番大きな子供があいさつをした。彼は髪が黄色いだけけれども、赤いドンちゃんと名乗っている。そのあだ名は、実は、今は死んでしまった彼のお父さんのあだ名だったのだが、「赤いドンちゃんの息子」と言うところを短くして彼に応用したのだ。

「さて、ヤーノ。もう一度故郷へ」と言ってヤーノを誘った。それは、何かの都合でその島の出身であって、休暇を楽しんでいるすべての人々に対して、その島人が形式的にいう言葉であった。

B .

Ni vidas ŝian vivprincipon en la vortoj "Nek songi nek timi", kiuj estas metitaj sur la pordo de ŝia kabineto.

Por Isabella vivo estis tio, kio estis antaŭ ŝiaj okuloj, kaj kio estis eĉ ne pura kaj eĉ ne bela.

(El "Isabella d'Este" en la libro "La virinoj, kiuj vivis en Renesanco", verkita de Ŝiono Nanami)

解説

初級A - 4 : 「そのドアは開かない」は、La pordo ne malfermiĝas. です。La pordo ne estas malfermita. とすると、「ドアは開かれた状態ではない」、あるいは「ドアが誰か(何か)によって開けられたということはない」という意味になります。A - 5 : rompi は「割る」といいますが「破壊する」という意味ですから、玉子を料理するために「割る」のは malfermi のほうがよいと思います。

初級B - 3、4 : -isto は「～を職業とする人、～を専門とする人」、「～の思想・理論・教義を奉じる人」、「～の(スポーツ)の選手、～の(楽器)の演奏家」などの意味があります(『エスペラント日本語辞典』から)。B - 5 : papere は、per papero を一語の副詞 papere にしたもので「紙で、紙を使って」という意味です。この場合は、「書面で」ということです。

中級A : vi kaŝis vin, は「あなたはあなた自身を隠す」ということですから、「隠れる」という意味です。

dum la lasta semajno の lasta semajno は「先週、前の週」ということで、dum la lasta semajno は「先週の間ずっと」という意味になります。

Insulo は「島」で、insulano 「その島の一人、島人」です。

中級B : 『イザベラ・デステ(1474年3月18日 1539年2月13日)はイタリア・ルネサンス期のマントヴァ侯夫人。文芸を保護したことで知られる。フェラーラのエステ家の出身。16歳でマントヴァ侯ゴンザーガ家のフランチェスコ・ゴンザーガ(1466年 1519年)のもとに嫁いだ。才色兼備で知られ、高い教養と外交手腕を持っていた』。Nec ~ nec ~ という言い方が、エスペラントの nek ~ nek ~ と同じで「～でもなく、～でもない」という意味であったので、ここに引用した。

通信添削問題

2006年11月号の問題

初級

A. 次の文をエスペラントにしてください。

1. 50年前は、音楽愛好家はレコードをたくさん持っていた。
2. 事務所で働く人を事務員という。
3. 写真家が私の写真を撮りました。
4. ボーイはワイングラスにウイスキーを注ぎ入れました。
5. ボトルには、グラス一杯分ぐらいのワインがはいっています。

B. 次の文を日本語にしてください。

1. Donu al mi du metrojn da silko.
2. Mi aĉetis du dekduojn da ovoj.
3. Tiu ĉi monto havas trimil tricent okdek tri metrojn da alto.
4. Sur la bordo de la maro en la urbo Venecio paŝis amaso da homoj.
5. Sur la arbo troviĝas multe da birdoj.

中級

A. 次の文を日本語に訳してください。

"Rano, kompreneble! Kie--", komencis Dol Rua.

"Rano, bastardo", sibilis gnomaspekta knabo kun nigraj brovoj. "Mortigu ĝin!"

"Ne!", protestis Jano.

"Ne", konfirmis Dol Rua. "Lasu tion, Erĉi! La rano apartenas al Jano. Lasu ĝin trankvila".

B. 次の文をエスペラントに訳してください。

零の発見と並んで、チェスは世界に対するインドの貢献、という人もいる。紀元前二千年以前にさかのぼるインダス文明期の遺物にはすでに、チェス用かと思われる格子目の付いた煉瓦製の厚い方形盤が、陶製あるいは貴石製の駒とともにモヘンジョ・ダロやハラッパーなどの遺蹟に出土している。

(「みんぱく」2006年5月号より)

宛先 〒621-8686 京都府亀岡市天恩郷
エスペラント普及会 誌上講座通信添削係
(返信用封筒に切手を貼ってお申込み下さい)



EPA 事務局便り

第 52 回 EPA 理事会・代議員・支部長会議開催ご案内

12月2日(土)午後1時半～5時まで、大本本部第3安生館2階ミーティングルームにおきまして、「第52回EPA理事会および代議員・支部長会議」を開催します。関係の皆さまのご出席をお願いいたします。

なお、午後6時半からは同会場におきまして、「懇親の夕べ」を催しますので、EPA会員の皆さまのご参加をお待ちしています。なお、同懇親の夕べの参加費は1人500円です。ふるってご参加ください。

ザメンホフ祭 en 2006!

12月3日(日)午前10時から恒例の「天恩郷月次祭」が執行されます。祭典では、斎主による天恩郷月次祭祝詞に引き続き、ザメンホフ生誕祭祝詞も併せて奏上されます。

祭典後は午後1時半から4時まで、大本会館ホールを会場に、日ごろからエスペラント学習を継続している、天恩郷エスペラント夜間講座受講生、梅松塾生、来苑中のエスペランティストによるエスペラント発表会(寸劇、歌、朗読、意見発表など)予定しています。参加費は無料です。

当日、エスペラント(日本語でも構いません)で発表希望の方は、12月1日までにEPA事務局までご連絡ください。ご家族連れでのご参加をお待ちしています。

訂正とお詫び

本誌8～9月号表紙の aügusto-septembro は augusto-septembro に。10月号目次2行目の三好鋭朗は 鋭郎に。4ページ11行目のエスペラントを欽務教育では 義務に。・22ページの1行目の kuf~~la~~s は kuŝas に、4行目の pasaĝer~~fl~~ipe は pasaĝerŝipe に、5行目、10行目、12行目の la flipo は ŝipo に、15行目の kuf~~la~~s は kuŝas に訂正し、お詫びします。

EPA 事務局便り

越年エスペラント研修会

明年は8月4日～11日まで、横浜で「第92回世界エスペラント大会」が42年ぶりに日本で開催されるほか、同12日～14日には綾部・梅松苑を主会場に、海外のエスペランチスト60名をお迎えして、国際エスペラント行事 Bonvenon al Oomoto（ようこそ大本へ）が、大本、人類愛善会、エスペラント普及会の共催で開催されます。

この絶好の機会に、多くの皆さま方の「越年エスペラント研修会」へのご参加をお待ちしております。

- ・期間：平成17年12月30日～平成18年1月2日
- ・会場：亀岡市天恩郷第3安生館1階ホール
- ・対象：中学生以上で、エスペラント学習に意欲のある方
- ・参加費：一般 15,000円 EPA会員 12,000円 大本青少年部員 8,500円
- ・内容：入門・初級・中級クラスの3コース（参加人数により細かく班分けを行ない、懇切丁寧な指導を行ないます）

なお、最終日には、希望者対象のEPA認定試験（力だめし）が実施されます。

- ・申し込み先：住所・氏名・年齢（学年）・来苑日時・宿泊の有無、希望クラスを明記して、電話・郵便・FAX・Eメールなどで下記までお申し込みください。

〒621-8686 京都府亀岡市天恩郷 エスペラント普及会

TEL：0771-22-5561 FAX：0771-25-0061

Eメール：officejo@epa.jp

- ・締め切り 平成17年12月19日（火）必着（厳守）

第17回国際エスペラント合宿参加案内（福岡出発コース）

期間：2007年3月24日（土）・25日（日）

【福岡出発コースは24日（土）～27日（火）】

3月24日（土）午前8時45分 博多港発 ～ 午前11時40分 釜山港着

26日（月）午後8時 釜山港発～27日（火）午前7時30分 博多港着

慶尚北道の清道市の会場へ向かいます。合宿終了後、再び釜山へ帰り、市内観光の後ホテル泊、翌日観光やショッピングの後、釜山港から夜行フェリーに乗船、早朝に博多港に到着予定。

(1) 横浜での第92回世界エスぺラント大会は、2007年(平成19年)8月4日から11日まで、横浜市内の「パシフィコ横浜」と「横浜みなとみらいホール」「神奈川県立音楽堂」、その他を会場に開かれます。

(2) 大会テーマは、**Okcidento en oriento: akcepto kaj rezisto**、「東洋の中の西洋：受容と反発」

(3) 主なプログラムの予定は、変更の可能性もありますが、今年のフィレンツェ大会を参考にしますと、次のようになります。

8月4日(土)	国際交流の夕べ(前夜祭)
8月5日(日)午前11時から	開会式(横浜みなとみらいホール)
	午後6時半(または午後7時から)日本の夕べ(横浜みなとみらいホール)
8月6日(月)午前	大会教養講座(パシフィコ横浜)
	夕方 食事会、ダンスの夕べ
8月7日(火)午後7時	コンサートの夕べ(神奈川県立音楽堂)
8月8日(水)終日	一日観光日
8月9日(木)午後7時から	演劇の夕べ(神奈川県立音楽堂)
8月10日(金)午後7時から	国際芸術の夕べ
8月11日午前10時から	閉会式(横浜みなとみらいホール)

(4) 大会参加費は(以下は2006年12月までに申込の場合です。それ以後は増額になります)

- イ) U E Aの個人会員 23,000円
- ロ) U E Aの個人会員でない人 30,000円
- ハ) 同伴者・青年・障害者の方であって、同時にU E Aの個人会員である人 11,500円
- ニ) 同伴者・青年・障害者の方ではあるが、U E Aの個人会員ではない人 17,500円

となっています。

(5) 会場についての耳より情報

- イ) 開会式会場の「横浜みなとみらいホール」は、ランドマークタワーからパシフィコ横浜との間にあります。

EPA 事務局便り

ロ) 会場への交通は、新横浜駅からは、JRに乗り換えて桜木町駅で下車し、駅前から動く歩道で「ランドマークタワー行き」、さらに「横浜みなとみらいホール」、あるいは「パシフィコ横浜」に。

または、桜木町駅からタクシーで。

ハ) 東京方面からは、JR京浜東北線で桜木町駅で下車。

以下は(ロ)の通り。

ニ) 渋谷からは、東急東横線で「みなとみらい21」駅で下車、エスカレーターで上階へ上がり、徒歩で「横浜みなとみらいホール」、あるいは「パシフィコ横浜へ」

(6) 宿泊についての耳よりな情報 宿泊はUEAでも取り扱いますが、各自がホテルに申し込んだほうが、安くなるようです。夏休み期間なので早目の申し込みが良いと思われます。

(7) 大会参加費についての耳よりな情報

大会の全日程に参加しない場合は、一日入場券が発行されません。1日あたりは30,000万円の7分の1よりは高いですが、1~2日だけの参加なら安くなります。(ただし大会参加者としての名前は発表されません)

(8) 大会教養講座について

大会中には、「大会大学」(IKU)が開かれます。誰でも聴講できますが、大学での講義をエスペラントで行うわけで、高レベルの講義となります。

「教養講座」は、「大会大学」ほど専門的で高度な講義ではなく、一般的教養の範囲でためになる講座が開かれます。

(9) 国際芸術の夕べについて

エスペラント版の「素人のど自慢・芸自慢」です。のど自慢・芸自慢の大会参加者で、前もって行われる予選を通過した人が出場できます。

(10) 日本の夕べについて

現在、交渉中ですが、雅楽の舞楽(雅楽の中で舞のあるものを舞楽、舞のないものを管弦といいます)、十三弦、長唄舞、和太鼓を予定しています。和太鼓のほかは、プロの方たちです。

第92回世界エスペラント大会準備委員(芸術担当) 裕大福

EPA 認定級試験合格者

平成 18 年 9 月 13 日交付 (大本梅松塾にて実施・H18 年 9 月 13 日)
Kvina (5 級) 長崎 繭子 Majuko Nagasaki 大本梅松塾
Kvina (5 級) 西永 文美 Humi Nišinaga 大本梅松塾

貸会議室「エスペラント会館」が京都で malfermata!

「サークルの集まりに、少人数の会議に、お気軽にご利用ください」
と、京都市下京区西洞院通五条上る八幡町 537 - 6 (電話・FAX :
075 - 343 - 3120 電子メール : esperantokaikan@yahoo.co.jp)
* 利用料金、予約受付については上記まで。

EPA 支部活動報告募集中!

全国各地で毎月開催されています、エスペラント学習会などの報告記事などを本誌上で掲載しますので、関連の写真などとともに本誌編集部までご送付ください。

La 1-a Informilo

Bonvenon al Oomoto en 2007!

*<De la 12-a ĝis la 14-a de aŭgusto, 2007, en Ajabe >
Tuj post la 92-a Universala Kongreso de Esperanto okazonta en Jokohamo, Japanio en 2007, ni, la Centra Oficejo de Oomoto, Universala Homama Asocio (UHA), kaj Esperanto-Populariga Asocio (EPA) kune aranĝos la internacian eventon en la naskiĝloko de Oomoto, Ajabe, en la gubernio Kioto, bonvenigante al si diversnaciajn esperantistojn por profundigi amikecojn per japanaj tradiciaj artoj, la Uta-festo de Oomoto kaj ceteraj. Bonvolu ne maltrafi tiun ĉi raran ŝancon por plene gravuri kaj japanajn kaj internacietosajn memorojn en via koro.*

Aliĝnotoj

Titolo de la evento: Bonvenon al Oomoto en 2007!

Dato: De la 12-a (mateno) ĝis la 14-a (tagmezo) de aŭgusto en 2007

Aliĝnombro: 60 kromjapanoj

Loko: La Centra Oficejo de Oomoto, Ajabe en Kioto (Bajŝo-en, Ajabe-ŝi, Kioto-hu, 623-0036, Tel: 0773-42-0187 Telefakso: 0773-43-0220, ĉirkaŭ 80 kilometrojn nordokcidente de la urbo Kioto)

Aliĝkotizo: (inkluzive de la kostoj por 8 manĝoj kaj 2 tranoktoj en Oomoto)

**A-kategorio=50 eŭroj por 1 persono*

Tranoktejo: Oomota dormejo japanstila, unu ĉambro por 3~10 personoj

**B-kategorio=40 eŭroj nur por la aliĝintoj antaŭ la fino de la jaro 2006*

Tranoktejo: Oomota dormejo japanstila, unu ĉambro por 3~10 personoj

**C-kategorio=60 eŭroj nur por la aliĝintoj post la fino de aprilo en 2007*

Tranoktejo: Oomota dormejo japanstila, unu ĉambro por 3~10 personoj

**D-kategorio=15 eŭroj escepte de 2 tranoktaj kostoj*

EPA peros porkomercistan urb-hotelon ekster Oomoto (ĉ. 20 minutojn per piedoj for de Oomoto: (A)1-lita, (B) 2-lita, (C) luksaj ĉambroj estas disponeblaj laŭ la hotela tarifo: 1 nokto por 1 persono, inkluzive de matenmanĝo=13,000~18,000 enoj)

Tiuj povos esti ne rezerveblaj post la fino de februaro en 2007, kaj post la fino de julio ne eblas malmendi la rezervon.

Aliĝmaniero: Bonvolu kontakti kun Esperanto-Populariga Asocio(EPA), malfermante nian hejman paĝon: <http://www.epa/boa.html> aŭ <http://www.oomoto.or.jp/Esperanto/esyokohama/index.html> kaj kompletigu respektivajn demandetojn.

EPA

*Tenon-kjo, Kameoka-ŝi, Kioto-hu, 621-8686 Japanio
Telefono:+81-771-23-2145 Telefakso: +81-771-25-0061
Retpoŝto: oficejo@epa.jp*